

# 年10億円? ブラックボックスの官房機密費

## 領収書不要・使途も非公表

河村建夫元官房長官が使用の一端を明かした内閣官房報償費(官房機密費)は年間10億円超にのぼるとされる。月平均約1億円で、この大半を占める「政策推進費」が領収書不要で官房長官の判断で使える。原資は税金だが、具体的な使用道が明らかにされないため、「ブラックボックス」と指摘されて問題になってきた。過去には国会対策に使用したことを認めた官房長官経験者もいた。

### ▼社会面参照

機密費の仕組みは、裁判などでこれまで、官房長官の指示を受けて内閣総務官が国庫に請求▽小切手で振り出された後、現金化して首相官邸内の金庫で保管——することなどが明らかになっている。

今国会でも、石川県の馳浩知事が東京五輪の招致に使ったと発言して撤回した問題をめくり、立憲民主党などが使用道を公開するよう政権を迫り、岸田文雄首相は「機密費の取り扱いは今日まで

での様々な経緯を踏まえたものの。現状の取り扱いを維持していくべきだ」と答弁した。機密費を管理する松野博一官房長官も「国の秘密保持上、使途を明らかにできない」との答弁を繰り返している。

河村建夫氏は、自民党が2009年に下野する際に麻生内閣の官房長官として機密費を管理していた。民主党政権に明け渡す前に相当額を引き出したとされ、鳩山由紀夫内閣は10年の答弁書で「それまでの支出の態様とは異なるものと言わざるを得ない」と指摘した。ただ、民主党政権も機密費の具体的な使用道は明らかにしていない。

小淵恵三内閣で1998、99年に官房長官を務めた野中広務氏は引退後の2010年、機密費について「毎月5千万〜7千万円くらいは使っていた」と記者団に話し、野党工作などのため自民党の国会対策委員長に月500万円を渡していたなどと明らかにしていた。(編者正寛)